

トラブル／原因と対処法

粉が手に付く 主に、硬化するために必要な水分が硬化前に奪われた場合に起きる現象です。
硬化不良現象（ドライアウト）

- 原因** …… ● 仕上げ塗りの施工厚が薄すぎた場合
- 硬化前に凍結した場合
 - ストープ等を使って急激に乾燥させた場合
 - 材料の水練り不足や練り置き不足
（珪藻土と固化材がなじまない状態で施工したとき）

処理 …… 全面塗り替え（右ページ参照）

テカリ 仕上材の練り水が仕上げ面に浮いたまま乾燥した場合に起きる現象（主に粉末タイプ仕上材で起きやすい）

- 原因** …… ● 練り水の量が多過ぎた場合
- 仕上げ塗りの際、コテ押さえのタイミングが早すぎて、練り水が表面に浮いたまま乾燥した場合
 - コテに水を付けてコテ押さえをした場合
 - メトロースや粉つのまたを多く入れ過ぎた場合
 - 施工現場の湿度が高く、施工した壁材の湿気が抜けにくい状況がつづいた場合に起きやすくなります。

処理 …… 全面塗り替え（右ページ参照）

壁材が付着した木部が黒変した 〈エコ・クween〉が強アルカリ性のため、木部に壁材が付着すると、木の種類によっては黒ずむことがあります。

- 原因** …… ● 施工時、チリボウキに水を付けてチリ周りを拭いた
（※木部だけでなく、水が壁面に付着しますと色変わりますので、チリボウキは使わないでください）
- 養生が不十分で、壁材が木部に付着した

処理 …… 希塩酸でアルカリを中和しますと、黒ずみは消えます。塩酸の入手が困難な場合は、木部洗剤の酸性タイプの液で黒変部分を処理してください。
（わからないときは専門業者に相談してください。）

※施工面以外の所は、材料が付着しないよう、養生テープやシート等で養生してください（無垢のフローリングにもご注意ください）。

キズ・へこみの補修方法

補修箇所の周りにマスキングテープを貼り、十分水打ちし、余分な水分を拭き取ってから練った材料を塗り込んでください。そして、マスキングテープを取った後、周辺となじむようきれいな指でほかしてください。なお、完璧な補修が難しい材料であることをあらかじめご承知おきください。

※水打ちせずに、水練りした材料で補修すると、急激に吸水されて、硬化不良（ドライアウト）や色変わりを起こします。

ヘアークラックの補修方法

※完璧な補修が難しい壁材です。その点をあらかじめご了承ください。

〈粉末タイプ〉の場合

仕上材を水練りして固めたものを細かく砕き、ふるい（60メッシュ）にかけた粉を、きれいな指、あるいは、ガーゼやストッキングに包んでヘアークラック部分にすり込み、その後、粉が少し湿る程度に霧吹きで水を軽く吹きかけてください。乾燥後、クラックがまだ目立つようであれば、補修作業をくり返し施してください。

※白系の品番は、固めずにそのままの粉を使います（顆粒入りの場合は、ふるいにかけて顆粒を抜いた粉を使用）。

〈ペーストタイプ〉の場合

ヘアークラックの部分を霧吹きなどで十分湿らせた後、同じ材料をきれいな絵筆などで塗り込み、周辺となじむようきれいな指でほかしてください。乾燥後、クラックがまだ目立つようであれば、補修作業をくり返し施してください。

※顆粒入りの〈PZ〉場合は、目の細かいネットなどで顆粒を取りのぞいたもので補修してください。

全面塗り替えの方法

さまざまな理由により、全面塗り替えが必要となった場合は、硬化不良（ドライアウト）を防ぐために、施工面に水性シーラーを塗布して吸水を抑える必要があります。

1 全面に水性シーラー塗布

水性シーラーは塗りムラがないよう、均等に塗布してください。（13ページの塗り方参照）

極端な塗りムラは、色ムラの原因になります。

乾燥

クラックがある場合はクラック部分にファイバーテープを貼って補強してください。

2 下塗り

乾燥

アクやシミが原因で全面塗り替えをする場合は
アクが出ていないかチェック

『下塗り』乾燥後に、アクやシミが出ていないことを確認してから、『仕上げ塗り』をしてください。

アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

3 仕上げ塗り